

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2014.2.5 No.187 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地 C-130が 住宅地上空で急旋回 住民から「恐く感じた」の声



1月30日、埼玉県の知人から、このところC-130が埼玉県の上空で大きく旋回したり、急旋回したりしている。何か訓練をしているのか、と問い合わせがありました。

特別な訓練とは聞いていませんが、この週(1月27日～31日)、横田基地周辺でも低空飛行訓練が続き、住宅地上空での急旋回で住民から「恐く感じた」との声がありました。



あきる野市からも、このところ米軍輸送機C130が我が家の上空を飛び回っている(左上写真)。数機が何度も旋回してくる。30日は夜9時近くまで訓練が続いていた、との情報がありました。

1月30日はC-130の訓練もしつつ、横田基地では航空自衛隊入間基地の大型ヘリコプターCH-47J、米陸軍のUC-35A、厚木基地のE-2C(写真:かつて横田で訓練)、デルタが出入りです。

「辺野古」新基地 40年運用可能 200年耐用年数 オスプレイ100機

機能強化される辺野古新基地



辺野古新基地計画のひどさ、改めて暴きたい。

「(辺野古沖の)海上基地と全ての付随設備は40年運用可能、耐用年数200年を想定して設計される」

米国防総省が1997年9月29日にまとめた、辺野古新基地に関する報告書(「普天間基地移設のための運用上の所要と運用構想」)の一節です。仮に新基地が計画どおりに2022年に完成したとすれば、耐用年数は西暦2222年、すでに23世紀になっているという計画です。

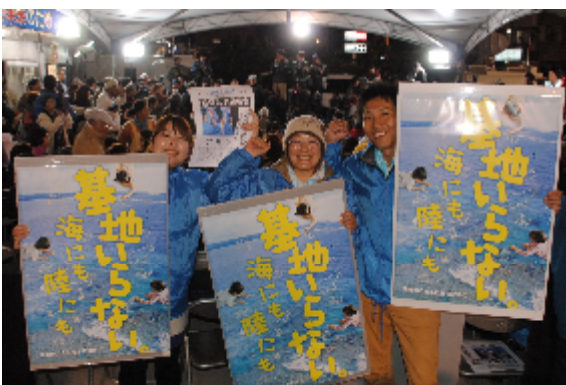
この報告書は当時の沖縄県が入手しました。98年11月の知事選で当選した稲嶺恵一氏は新基地容認の立場でしたが、「15年使用期限」の条件をつけざるをえませんでした。

「普天間基地の代替施設には、有事の事態を想定すれば100機程度のオスプレイを収容できる面積がなければなら」ない、(オスプレイ配備を決定した際、防衛大臣だった森本敏氏の著書『普天間の謎』より)

加えて、強襲揚陸艦ボノム・リシャール(米海軍佐世保基地所属)が接岸可能な272メートルの護岸も計画。同艦はオスプレイ12機を搭載可能で、沖縄の第31海兵遠征隊を乗せてアジア太平洋全域に展開します。

この基地を強引に建設しようとする安倍政権、屈服した

仲井真知事ら、正気とは思えません。(写真、前号名護市長選勝利の写真も:東京平和委員会提供)



中南米カリブ海諸国共同体・首脳会議 平和地帯宣言を採択 (No.187の裏面)



メキシコからアルゼンチンまで、中南米カリブ海地域の全ての独立国 33 カ国で構成する地域機構「中南米カリブ海諸国共同体」(セラック CELAC)は1月29日、キューバの首都ハバナで開いた第2回首脳会議で、同地域を「平和地帯」と宣言する文書を採択しました。

同文書は「武力の行使およびその威嚇を永久に放棄することをめざし、紛争を平和的に解決する」決意を表明。CELAC加盟国が、他国の国内問題への直接・間接の干渉を行わず、国家の主権という原則を順守する義務を負うことや、政治・経済・社会体制の違いにかかわらず他の国々と友好と協力の関係を促進する立場を明らかにしています。

核軍縮については、同日採択された首脳会議宣言で、検証可能で透明性のある形での「核兵器の全面的な廃絶を達成する緊急の必要性」を指摘。核兵器を禁止するための拘束力ある手だての交渉で前進が図られるよう呼び掛けました。世界は平和へ向かって、大きく動いています。

世界の著名人が「辺野古」新基地反対の県民を支持 国際署名を開始

名護市辺野古に米軍新基地を建設するための埋め立てを仲井真弘多県知事が承認したことについて、歴史学者のジョン・ダワー氏、映画監督オリバー・ストーン氏、マサチューセッツ工科大学のノーム・チョムスキー名誉教授、アメリカフレンズ奉仕委員会のジョゼフ・ガーソン氏、ノーベル平和賞受賞者のマイレッド・マグワイア氏、映画監督のマイケル・ムーア氏など著名な学者、文化人、平和活動家ら29人が、1月7日、新基地建設に反対し、沖縄県民のたたかいを支持する連名の声明を発表し、賛同を呼び掛けました。声明は、仲井真氏が県外移設を公約していたと指摘し、「承認は県民への裏切りだ」と批判。そして声明は、「沖縄の人々による平和と尊厳、人権と環境保護のための非暴力のたたかいを支持する。辺野古の海兵隊基地建設は中止すべきであり、普天間は沖縄の人々に直ちに返すべきだ」と結んでいます。

この声明に賛同する世界各国の著名人102人は1月28日、安倍晋三首相とオバマ米大統領に対し、同基地建設計画の中止と、米海兵隊普天間基地の即刻返還を求める、国際署名運動を開始すると発表しました。署名運動に参加しませんか。【署名運動のサイトは <http://chn.ge/1glVJSw>】

米無人偵察機グローバルホーク2機 5月～10月 三沢基地へ



米空軍は、グアムに配備している無人偵察機 RQ-4 グローバルホーク2機を5月ごろから10月ごろまで、三沢基地(青森県三沢市)に展開させると外務省に通告。防衛省東北防衛局を通じて関係自治体に連絡しました。日本への配備は初めてです。

グアムが頻繁に台風に見舞われ、運用が難しくなるケースが出ていたための措置と説明されています。三沢基地には同機とともに要員や整備士ら約40人を派遣。週2回程度の運用になるとしています。機体と要員はグアムから移動しますが、カリフォルニアのオペレーターが遠隔操縦するそうです。グローバルホークは約1万8000メートルの高々度を飛行でき、航続距離は約1万6100キロ。諜報・監視・偵察活動が任務です。米空軍はグアムに3機を配備し、アジア太平洋地域の監視に使われています。アフガニスタンやイラクでの実戦にも投入されています。

グローバルホークの日本展開については昨年10月の日米外交・軍事担当閣僚会合(2プラス2)の共同発表で、今年春からローテーション配備を開始することで合意していました。